研究部会報告

日本的リソースマネジメント

第21回　53. 7. 1 (土), 14：00～17：00, (財)地方自治情報センターにおいて開催.

議題, 組織体における中高年層の問題について (株式会社リコーにおける実例を中心に), (株)リコー, 伊藤隆氏の話を中心に研究討議が行なわれた. 参加者12名, 現在中高年層の問題が急速にクローズアップされており, ヒューマンリソースマネジメントの見地からみれば, 日本の将来をも左右しかねないバイタルな要因を含んでいることも事実である. これに対し相当突込んだ討議が行なわれ, ひとつの示唆になるものが得られた.

(主査　小野勝章事務所　小島光造)

政策科学

6月例会　6月17日(土), 14：00～17：00, 場所：三菱総研会議室, 出席12名.

(1) 研究発表「人口爆発と価値観」(三菱総研・佐野忠男氏)：吉田夏彦著『文明を問いつめる』を紹介したあと, 人口爆発→価値観への影響→政策科学との結びつきを提示したが, 人口爆発は価値観に影響を与えるとしても政策でどうこうできる問題でないという異論がでた.

(2) 研究発表「零細企業対策のあり方・下」(植松会計事務所・新保玲子氏)：評価基準と諸対策の効果のマトリックスを示したあと, ①零細企業のみじめな状況を示すにはアンケート調査がよい, ②OR的というより社会心理学的対応が必要, ③共同工場方式ははなばなしいが参加者は2割にすぎず, 要は政策目標に何を選ぶかではないかなどの議論をかわし, マトリックスは諸意見を参考にしてさらに検討を続けることになった.

7月例会　7月22日(土)　14：00～17：00, 場所：同上, 出席10名.

(1) 研究発表「トータル・システムとしての技術予測」(武田薬品・湊晋平氏)：技術予測の考え方と方法論をスライドで整理・紹介したあと, ①政治・経済・社会との関連づけが重要, ②サイクルとトレンドはわけてみるほうがよい, ③価値観が変曲点にあることを考えよと結び, 活発な討論を行なった.

都市計画と交通

第14回　6月21日　"国際交通シンポジウムの話題から" その1　報告者：杉野隆氏(新日鉄), 出席：6名.

次回とともに, 朝日新聞社主催第2回国際交通シンポジウムの紹介にあてることにした. 今回は, 第五分科会「エネルギーと交通」を取り上げた. このテーマの総論として, ミラー氏による"米国の戦略"とブラドン氏(バッテル)による"ヨーロッパの場合"が提出されている.

ミ氏は米国の交通システムとそのエネルギー消費, 代替エネルギーとそれへの転換の問題について論じている. 道路交通用のエネルギー源として, 現在の石油にすぐとってかわれるものはないが, 今後25～50年の内に代替エネルギー源へ転換が求められており, それに適合する交通技術が完成されなければならない. これはきわめて困難な問題であることを説明している.

ブ氏によると, ヨーロッパでは, エネルギー総消費の20%が交通に使われており (米国24%, 日本16%), その80%は道路交通で, また94%は石油である. (人間の移動に対する需要は速いペースで伸びており, 現在, 交通のエネルギーの3/4は人間の交通で消費している. 貨物輸送は1/4である.) 各輸送手段のエネルギー効率とエネルギー節約方法を検討して, 今後15年間に交通のエネルギーを25%節約可能だと結論している.

第15回　7月19日　"国際交通シンポジウムの話題から" その2　報告者：金田耕二氏(新日鉄), 出席：6名.

前回に続きシンポジウムの紹介で, 今回は第四分科会「新しい交通手段」を取り上げた.

まず, 西ドイツのキャビンタクシー (PRT) が紹介される. マール市の計画では, 乗客1人1km当り運行費は0.23マルク (約23円. ちなみに日本のバスは18円程度.) と見積もられており, 資本費を加えても0.60マルクで, バス (西ドイツの) よりすぐれている. つぎにフランスで, リール市に建設中のVAL, ケーブル駆動 (スキーリフト方式) のPOMA2000, 電子工学的な連結方式をとるARAMISの開発状況が述べられる. 米国からは, モーガンタウンAGTの第1期2年余の運行実績 (既に4百万人以上の乗客を乗せ, 2百万km以上走破している.) と問題点の改善状況, 第2期計画が発表された. これらに関し, 諸外国では, わが国よりも広い視野からの採算を考えており, サービスの質も違うのではないか, 日本の運賃は低いのではないか, などの感想が述べられた. 8月は休会する.

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会. 無断複写・複製・転載を禁ず.